

2020年度学校関係者評価報告

1. 日 時 2020年6月23日(火) 14時～16時

2. 場 所 愛仁会看護助産専門学校 2階 会議室

3. 出席者

評価委員：4名

(学校運営専門家) 八田武志 (関西福祉科学大学 学長)

(業界関係者) 松原正明 (愛仁会本部 常務理事兼局長)

(業界関係者) 井上裕美子 (愛仁会本部 看護担当特任理事)

(卒業生) 西原伸美 (井上病院 看護部長)

学校出席者：6名

清水富男 愛仁会看護助産専門学校 学校長

台野悦子 愛仁会看護助産専門学校 副学校長

真島久美子 愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事

増本綾子 愛仁会看護助産専門学校 看護学科教育主事

大石有香 愛仁会看護助産専門学校 助産学科教育主事

松田孝緒 愛仁会看護助産専門学校 事務部長

4. 会議の概要

(1) 昨年度の評価結果コメントに対して

(2) 昨年度との相違点説明

(2) 事前評価資料からの質疑応答及び書類審査

(3) 評価者協議

(4) 講評

評価項目については、自己点検・自己評価報告書の基準に基づき以下のとおり実施した。

I 教育理念・目的・育成人材像

VI 教育環境

II 学校運営

VII 学生の募集と受入れ

III 教育活動

VIII 財務

IV 学修成果

IX 法令順守

V 学生支援

X 社会貢献・地域貢献

5. 評価結果

評価項目 全項目について「可」の評価

6. 今後の取り組み

各評価委員から貴重なご意見を頂き、今後も、学校関係者評価の結果を踏まえ、学校関係者と連携・協力し、教育水準の向上、学校運営の改善、強化に取り組んで参ります。

以上

2020年度 評価

	自己評価	学校関係者評価
I 教育理念・目標	2.6	可
	学校理念の重要性の認識の一つとして、全教職員で”コンセプト”を作る取り組みを行い、「確かな実践力と人間力でのちを支える いのち育む」に決定した。学生便覧やホームページに記載、名刺にも印刷し広く周知している。	教育理念等の明文化がしっかりしている。社会の動向の変化に合わせ、教職員も具体的にどの様に対応すべきか考えていく必要がある。コンセプトを明らかにできたことは良いが、日々の学生との関りで浸透を求める。
II 学校運営	2.7	可
	「職業実践専門課程」認定により、学校の教育の質や教育内容の評価を受けていることを周知するため、受験生に対しては、パンフレットやホームページ上で認定校であることを公表し、オープンキャンパス時には補足説明を行い、学校案内送付時にも文部科学省作成のリーフレットを同封している。	今後の学校の方向性を明確にしてほしい。職員会議等での周知後に、教職員それぞれがどのように取り組むべきかを、管理職だけでなく自らの発言する機会が必要である。
III 教育活動	2.7	可
	臨床判断能力育成に向けて、PBL やアクティブラーニングをこれからも取り入れていく。法人の協力もあり、質の良い教育実践のための一定数の教員を確保できている。	国際化に向け、他国の人への対応ができるような教育活動を検討する必要がある。実習評価の更なる評価基準の明確化を求める。4年生の大学校化移行への検討もあり、教職員の大卒資格・研究について検討を求める。
IV 学修成果	2.6	可
	進路状況については、看護学科 68 名 (92%)、助産学科 12 名 (86%) 愛仁会グループへ就職した。 国家試験状況については、看護学科 1 名 不合格 (前年度不合格者 1 名 合格) となったが、全国の合格率より上回っている。助産学科は全員合格した。 卒業生の愛仁会グループにおける看護職の割合が 31.2%、その中で管理職が 27% である。	高齢者ケア等の専門分野での活躍に繋げられる関わりを求める。地域社会全体からの役割発揮を考えられる学生の育成を求める。卒業生の把握は臨床も含めて考えていく必要がある。
V 学生支援	2.6	可
	愛仁会奨学金制度の見直しがあった。経済的に困窮している学生の支援を行うため、日本学生支援機構や高等教育修学支援新制度や専門実践教育訓練給付金制度を学生に勧めていく。	特に問題なし。助産学生は短期間で技術習得が必要であることから、学生自身が理解できる何らかの関わりが必要である。教職員のカウンセリングの対応力の研修等の対応も必要である。
VI 教育環境	2.6	可
	図書室の開室時間については、課題が残っている。また、新型コロナウイルス感染症対策としてオンライン授業の速やかな開始ができた。今後は学校内のネット環境の整備や学生の自宅での IT 環境に課題が残っている。	新型コロナウイルス感染症発生によるリモートの学習環境にも早く対応できていたことは素晴らしい。今後の設備含めた環境整備の強化は必要である。
VII 学生の募集と受入れ	2.9	可
	学生募集活動として入試倍率 3 倍を目指している。退学率は 3% であり、一般的な退学率 (1 割程度) よりは低く、このまま維持していきたい。退学理由は他校進学などの進路変更が多かった。推薦入試の条件である評定平均値も倍率に影響があるのではないかと考えられる。	倍率 3 倍目指してほしい。学校の良いところをどういう風に PR をするのか (個別対応等) が求められる。3 年間で育てあげられているところは良い。
VIII 財務	2.8	可
	財務基盤に関しては、社会医療法人愛仁会の強固な財務基盤により、学校単独の収支状況の影響なく運営が行える状況にある	愛仁会の元で予算を執行していることから問題は無いと考えられるが、独自の施設設備投資等を踏まえ、必要経費の組み立てが必要である
IX 法令等の遵守	2.8	可
	2020 年度、「私立専門学校等評価研究機構」、「日本助産評価機構」の第三者評価を更新のため受審する	特に問題なし。
X 社会貢献・地域貢献	2.0	可
	看護学科の夏祭りは老健施設側の保険、助産学科の子育て支援講座ではイベント保険にて対応している。	ボランティア以外の何らかの地域貢献を考えてほしい。
評価基準	3 : 適切 2 : ほぼ適切 1 : やや不適切 0 : 不適切	可 : 基準を満たしている 否 : 基準を満たしていない